

甲府市古府中町地内の 景観形成の取り組み



甲府市教育員会生涯学習文化課 佐々木満

「耕作放棄地のお花畑化」プロジェクト



Positive Action
for Pollinators

事業背景

- 全国的にミツバチの減少や不調が伝えられている。原因は農薬、ダニや病気などと推測されているが、多くの研究者は、開発により多様な植物が連続的に開花する土地の減少、つまりミツバチの体力を支える餌資源の不足と指摘している。農地周辺に花畑をつくることにより、ミツバチの餌資源（蜜源・花粉源）を創成し、その生育を促進することが地域農業の促進にもつながる。特に、山梨県は養蜂家が少ない割には、果樹や果菜類でのミツバチの需要が高く、深刻な問題となっている。
- 山梨県は耕作放棄地率が高く、農地の再生利用が課題になっている。耕作放棄地は、景観上も好ましくなく、病害虫の発生も含め、近隣農地や住民へ悪影響を与えている。

耕作放棄地を再耕作し、花畑化することで美観を形成するとともに、農業への貢献度が高い花を餌資源とするハチ類の育成環境を整備する必要性が高まっている。

目的

(1) 耕作放棄地の再生

花畑をすることで、疲弊した農地を回復させ、将来的な耕作地への再転換が容易になる。

(2) 県内農業への貢献

作物の主要な送粉者である野生ハナバチ類や飼養昆虫であるミツバチを増やすことで、農作物の生産量の減少や生産コストの増加を抑制することが期待される。

(3) 地域資源の創成

耕作放棄地が花畑化することで、地域の景観美化に貢献し、住みよい地域づくりと、雑草の管理による病害虫の発生、ごみの不法投棄の抑制につながる。

プロジェクトの運営組織

「耕作放棄地のお花畑化」プロジェクト推進協議会

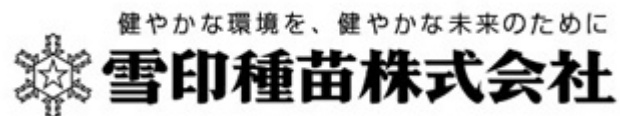
代表：玉川大学ミツバチ科学研究センター中村 純 教授

理事：野村養蜂場

理事：雪印種苗株式会社

理事：シンジェンタジャパン株式会社

関係機関：甲府市農業委員会、山梨県養蜂協会



活動実績

平成27年から甲府市相川地区、武田神社北側エリアの耕作放棄地を甲府市農業委員会および地域の農業委員会、農地銀行推進委員会の方の協力を得て、約1ha貸与いただき、除草、耕起、整地作業を経て、播種作業を行なった。



耕作放棄地



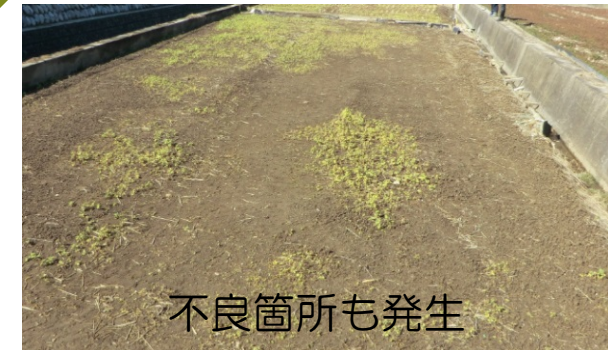
除草



生育良好



耕起



不良箇所も発生

活動範囲図



2015年 播種箇所

2016年 追加
(予定含む)

活動成果

①耕作放棄地の有効活用

花畑が増えることで、農業にとって有益な野生ハナバチ類や飼育昆虫であるミツバチが増え、地元農業への貢献度が高まると同時に、養蜂家の活動の補助となっている。

②景観美化

耕作放棄されて荒廃していた農地が春・夏・秋の期間、花畑となったことで、住民・来訪者にとっては見た目にも心地よい場を提供することにつながっている。特に武田神社には多くの来訪者・散策者があるため、イメージアップにつながっている。

活動の成果



今後の課題

現時点ではプロジェクト開始から2年目であるため、推進協議会が中心で作業を実施しているが、今後、地域住民を含む幅広い参加者の協力を得て、耕作放棄地の利用と景観の改善が期待される。



農業振興に止まらず、景観美化や地域振興の側面からも一般市民の参加を促すための広報活動と、プロジェクトを通じて環境美化への意識を高め、長期的に活動を継続できるサイクルを整備することが課題である。